

厳しい残暑がいつまでも続いていましたが、やっと秋の気配が感じられる季節になってきました。現在会員登録数 4,338 人さま。次号は 11 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※今月は休載です

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

●参加者募集中！

◇小学生向けワークショップ「鏡をつかってチャレンジミッケ！」

「ミッケ！」の作者、ウォルター・ウィックさんと一緒に絵本の世界をつくってみましょう。

11月2日（土）11：00～12：00 大阪府立中央図書館 多目的室

小学生対象、定員 30 人、参加費 500 円 ※通訳あり

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html#061102ws](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#061102ws)

◇国際講演会「アメリカの絵本作家 ウォルター・ウィック 自作を語る」

11月2日（土）14：00～16：30 大阪府立中央図書館 多目的室

大人向け（中学生以上可）、定員 60 人、参加費 1000 円 ※通訳あり

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#061102](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#061102)

◇講演と対談「幼年文学のはじまりと現在」

12月8日（日） 13：00～16：00 大阪府立中央図書館 多目的室

講師：石井睦美さん（作家・翻訳家）、宮川健郎理事長

大人向け、定員 60 人、参加費 1000 円

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#061208](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#061208)

●「むかしの紙芝居を楽しもう！」を開催します

大阪府立中央図書館 国際児童文学館との共催で、塩崎おとぎ紙芝居博物館（三邑会）の紙芝居師による街頭紙芝居の公演を行います。

日時：11月9日（土） 14：30～15：30

場所：大阪府立中央図書館 多目的室 ※無料、申し込み不要

詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#06gaitokamishibai](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#06gaitokamishibai)

● «ご寄付をお願いします» 当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。  
→ <https://syncable.biz/associate/19800701>

● YouTube 版「本の海大冒険」 <https://www.youtube.com/@iicloll196>

※公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/ml\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html)

● Instagram [https://www.instagram.com/iiclo\\_official/](https://www.instagram.com/iiclo_official/) 随時更新

● X（旧 Twitter）[https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News) 毎日更新

■-----■  
【2】コラム  
■-----■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Yukiko's Talk

\*\*\*\*\*

『スペルホーストのパペット人形』 ケイト・ディカミロ/作 ジュリー・モースタッド/絵 横山和江/訳 偕成社 2024年8月 対象年齢：小学校中学年以上

\*今回のゲストは武庫川女子大学の福本由紀子さん（F）です。

あらすじ：パペットである、王さまと、オオカミと、羊飼いのつえをもった少女と、弓と矢をもった少年と、フクロウを、元船長の老人が買い求めるが、そのすぐあと、老人は死んでしまう。人形たちはがらくた屋にひきとられ、エマとマーサという姉妹のおじさんが二人へのプレゼントとして買い求める。二人の住む屋敷で、人形たちは離れ離れになるが、最終的に全員が集められ、姉妹と使用人のジェーンが姉妹の家族やお客の前で人形劇を演じる。最終章を合わせた全29章が3幕に分けられた作品。

F：全体に短かくて、文章も簡潔ながら、人生のエッセンスが読み取れるような一言一言が心にしみる寓話だと思いました。

Y：見返しの次に「ノーレンディというところでこんなことがありました」と書かれていて、英語では「Long ago, in a land called Norendy …」で、まさに、寓話、または昔話ふうの始まりになっています。この本に関する著者のインタビュー動画では、3作の「ノーレンディシリーズ」の1作目で、アメリカではすでに2作目も出版されているようです。

Kate DiCamillo Book Talk: The Puppets of Spelhorst  
([https://www.youtube.com/watch?v=Xys5\\_BPAe0c](https://www.youtube.com/watch?v=Xys5_BPAe0c))

どんな言葉が心にしみましたか。

F：たとえば、人形たちが馬車で移動をしているとき、少年が「この世界で、すごいことをなしとげたい」と語ると、フクロウが「われわれはひとりひとり、多くのものをかかえている。」とかしこそうな声で言います。フクロウ自身がわかって言っているとは思えないところがユーモラスなのですが、言っている内容はぐっと心にさします。ほかの人形や人間のせりふにも同じように心に残る言葉がたくさんありました。

Y：私は、短い物語の中に、人形たちの物語があり、人形と出会った人たちの

物語があり、たくさんの物語が詰め込まれていて楽しめました。そしてどの人形も登場人物も個性的で、人形は、人間をカリカチュアしています。人形たちは人間に動かしてもらうまで動けないなど、自由を奪われていますが、それぞれに夢を抱き、自分らしさを追い求めています。けれど、離れ離れになってしまうと、お互いに寂しくなり、多少自分の夢と違っていてもみんな人形劇を演じることで、生きる喜びを感じます。そういう意味でも寓話的だと思いました。

F：最初にパペットを購入した老人は、パペットの少女のすみれ色の目に、過去に愛した人を思い出し、自分が船乗りになって愛した人の元に戻らなかったことを後悔し、そのことを手紙にしたためて死んでしまいます。そういう意味では、悲しい物語とも言えますが、結末は、ハッピーエンドとも読み取れます。結末は明かせませんが、人形劇が演じられたことで、登場人物の一人が新たな人生を歩むことを決意します。つまり、物語は、人々に生きる勇気と喜びを与えるということが読み取れます。

Y：冒頭の物語が結末の伏線になっているところもこの作品の魅力です。他のディカミロ作品らしく、構成の妙があります。モースタッドの挿絵も魅力的で、この作品をよりどころに、空想を広げ、自分の物語を紡いでいける楽しさがある作品だと思いました。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第110回「マグノリアの木」

#### 霧が融けたら

「霧がじめじめ降っていた。／諒安は、その霧の底をひとり、険しい山谷の、刻みを涉って行きました。」——こう書き出される「マグノリアの木」の諒安は、修行僧でしょうか。一番高いところから一番深い暗い底へ、そして、霧に吸いこまれた次の峯へと伝っていきます。霧は、何べんも、ふっと明るくなり、また、うす暗くなります。霧のなかから声が聞こえてきます。——（これはこれ／惑う木立の／中ならず／しのびをならう／春の道場）

やがて、にわか霧が融けて、ぱっとあたりが黄金に変わるので。

（ああこんなけわしいひどいところを私は渡って来たのだな。けれども何というこの立派さだろう。そしてはてな、あれは。）

諒安は眼を疑いました。そのいちめんの山谷の刻みにいちめんまっ白にマグノリアの木の花が咲いているのでした。その日のあたるところは銀と見え陰になるところは雪のきれと思われたのです。

諒安がただ山道を歩いていくだけのストーリーです。マグノリアは、モクレン科の学名で、「賢治はモクレン科の中でも特に白い花をつけるコブシとホオノキの両方をマグノリアとして想定していた」（大塚常樹「『マグノリアの木』論」2003年）といわれます。

（けわしくも刻むころの峯々に いま咲きそむるマグノリアかも。）——また、諒安の耳に声が聞こえます。霧が融けてあらわれたのは、平らできれいな黄金の高原で、そこに、声の人が登場します。その人は、けわしい山谷一面に咲くマグノリアは「覚者の善」だといいます。「覚者」とは、仏陀の漢訳で、真理を体得した者のことです。

ここに描かれているのは、悟りを開く道そのものでしょうか。諒安は、「私がけわしい山谷を渡ったから平らなのです。」といます。諒安がたどり着いた場所には、白い花が咲いています。

ふたりの子どもがマグノリアの木の梢を見上げて、「サンタ、マグノリア、／枝にいっぱいひかるはなんぞ。」「天に飛びたつ銀の鳩。」「セント、マグノリア、／枝にいっぱいひかるはなんぞ。」「天からおりた天の鳩。」と歌います。賢治のテキストには、時折、キリスト教のイメージも入り込んできますが、まるで、「サンタマリア」といつているようです。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『風の又三郎』によりました。)

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 64

\*\*\*\*\*

「ほんとうのことをいってしまえば、」マーチペーンはそのそっけない、重ったるい声でいきました。「この家全体がわたしのものなのよ。」

「なんですって？」あわれなプランタガネットさんはそうさげびました。プランタガネットさんは、じぶんのせともの小さな耳が信じられませんでした。「でも、これはわたしたちの家です。わたしたちのものですとも。わたしたちが夢に描いた……わたしたちがほしいと思っていた……わたしたちが願いつづけていた家なんです。」とプランタガネットさんはいいました。

(『人形の家』ルーマー・ゴッデン/作 瀬田貞二/訳 堀内誠一/さし絵 岩波少年文庫 岩波書店 2000年10月 p.179-180 \*初版は1967年7月)

エミリーとシャーロット姉妹は、木でできた古いオランダ人形のトチー、顔が瀬戸物でできているプランタガネットさん、セルロイド製のことりさん(プランタガネット奥さん)、フラシ天でできた小さな人形のりんごちゃん、犬のかがりを家族に見立てて靴の箱に住まわせていました。人形たちの願いは、自分たちの家を持つことで、人形たちは強く願うと、願いがかなうと信じていました。

この願いは、トチーが元住んでいた古い家が、亡くなった大おぼさんの元から送られてきて実現します。ところが、家がエミリーたちによって改装され、プランタガネット一家が幸せに暮らしているところに、トチーとともに古い家に元々住んでいたマーチペーンという人形がやってきたのです。マーチペーンは、花嫁衣裳を着た高価な人形で、自分のことを「上品で美しい」と思って、プランタガネット一家をばかにし、引用のように、人形の家を自分のものだとして主張します。そして、エミリーは、マーチペーンの美しさに夢中になり、マーチペーンに仕える役割をプランタガネット一家に与えて屋根裏部屋と台所に押し込めてしまいます。けれど、妹のシャーロットは、プランタガネット一家に心を寄せます。

久しぶりに読み直しましたが、ストーリーテラーのゴッデンの物語に一気に引き込まれました。人形は、遊ぶ人がいてはじめて魂を持つというルールを貫きながら、人形たちの波乱万丈の物語と持ち主の姉妹の心の様子がいきいきと描かれています。家族とは何か、家とは何か、願いとは何かというテーマは今に通じていると改めて思いました。(Y)

\*\*\*\*\*

#### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

奈良県立美術館で11月10日まで開催されている特別展「エドワード・ゴーリーを巡る旅」に行ってきました。エドワード・ゴーリー(Edward Gorey, 1925-2000)の終の棲家に作られた記念館・ゴーリーハウス(アメリカ合衆国)で開催された企画展から、「子供」「不思議な生き物」「舞台芸術」などのテーマを軸に約250点の作品・資料で再構成した展示です。

第1章「ゴーリーと子供」には、ゴーリーの絵の才能を感じさせる子ども時代の絵とともに、『不幸な子供』(柴田元幸/訳 河出書房新社 2001年9月)など、子どもの登場する絵本原画が並べられていました。お金持ちの少女シャーロットが結末まで何度も不幸な目にあう様子が繰り返され、結末まで救いのないストーリーが繊細かつ濃厚な線で描きこまれています。

第2章「ゴーリーが描く不思議な生き物」では、『狂瀾怒濤：あるいは、ブラックドール騒動』(柴田元幸/訳 河出書房新社 2019年10月)が特に心に残りました。2本または3本の人間の指が地面から岩のように突き出ている場面に、スカートをはき頭にリボンをあしらったのっぺらぼうのナイーラー、洗面器を頭からかぶり三角巾で腕をつっているフーグリブーなど4人の奇妙な生き物が登場し、ちょっかいをかけ合ったり、けんかをしたりします。その指がピンとのびていたり曲がったりするのも奇妙で、不思議で不気味な世界へ誘われました。

第3章「ゴーリーと舞台芸術」には、バレエの公演に通い続けたというゴーリーのバレエ愛が読み取れる作品があり、特に『金箔のコウモリ』(柴田元幸/訳 河出書房新社 2020年11月)は、一人のバレリーナの成功と孤独が美しく悲しく描かれていました。第4章「ゴーリーの本作り」では、凝った装幀などが興味深く、第5章「ケーブルコードのコミュニティと象」には、象などの版画作品も展示されていて一味違うゴーリー作品を楽しみました。

関連展示「エドワード・ゴーリーと日本文化－20世紀アメリカの眼－」は、奈良県立美術館独自の企画で、日本の絵画のゴーリー作品への影響が指摘されており、ゴーリーの世界を違う視点で見ることができて、視野が広がったような気がしました。魂のこもったゴーリーの線の美しさを生で見ることができ、とても満足して帰りました。(K)

奈良県立美術館 <https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

\*\*\*\*\*

#### 《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

\*\*\*\*\*

今月は休載します。

来月配信の次号(N0.171)からは、第5章「古田足日先生」です。

<これまでの連載はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

■-----■

#### 【3】全国のイベント紹介

■-----■

● 子どもと本のまつり 秋の講演会

「それぞれの人生に立ちあう～絵本の読みあいを通して～」

講師：村中李衣（児童文学作家、山口学芸大学客員教授）

日時：10月27日（日）14：00～16：00 ※無料、要申し込み

会場：吹田市立中央図書館

共催：吹田市立中央図書館、吹田子どもの本連絡会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『スペルホーストのパペット人形』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ 応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uL2TpNhMEYWJpnQ9A>

締切は11月11日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

当財団所属のボランティアグループ「おはなしポップ」とともに、児童養護施設でおはなし会を行いました。小学校低学年までの子どもたちに、絵本を読んだりお話を語ったりしたあと、紙袋を使った「うさぎ」の手人形作りにみんなで大きわぎ。子どもたちは、私のところにも来て人形を見せてくれたり、話しかけたりしてくれました。おじいちゃん気分、満喫！（TA）

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---